

都市再生整備計画

きこないちょうちゅうしんしがいち
木古内町中心市街地地区
(第7回変更)

ほっかいどう きこないちょう
北海道 木古内町

平成28年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	木古内町	地区名	木古内町中心市街地地区	面積	100 ha
計画期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度				

目標

- 大目標 人々のふれあいが、活気と幸せを育むまちづくり
 目標①: 高齢者の方が安心し、生きがいを持って暮らせる「まちづくり」
 目標②: 街並み景観と合わせた賑わいのある商店街づくり
 目標③: 交通の利便性を活かした新たな観光開発と観光情報の発信機能づくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

■町の現況

木古内町は、古くから北の小京都松前町や、江差追分発祥の地江差町への鉄道結節機能を有し、多くの乗降客や荷物の積み卸し作業者の人口の増加から、駅及び駅周辺は活気に溢れ、現在における交通の要衝としての地位を築いてきました。

昭和63年3月本州と北海道を結ぶ青函連絡船がその長い歴史に幕を閉じ、同時に青函トンネルが開通し、鉄道による人員輸送が始まりました。

木古内町は「北海道の玄関口」となり、さらなる交通結節機能を有しましたが、年々乗降客も減少し、それに伴って駅周辺の賑わいも沈静しています。

また、過疎地域に見られる人口減少と高齢化率の上昇は、地域経済の衰退を招き、多くの官公庁や事業所が統廃合や撤退するという事態から、労働力人口が都市部へ流れ、町の急激な人口減少と高齢化率の上昇を引き起こしており、こうした状況から特に中心市街地は、衰退が進んできています。

■まちづくりの経緯

町は高齢者人口の増加から、「北の大地の福祉都市」をまちづくりの重要施策として、介護老人保健施設の運営や、シルバーハウジング制度に基づく公営住宅の整備(国土交通省が推奨する、福祉施設と公営住宅の一体整備を行っている優れた住宅として、町のこうした住宅政策が高い評価を受け、平成19年10月に国土交通大臣賞を受賞しました)、木古内町国民健康保険病院の移転改築など、町の中心部にこうしたハード面の整備を行ってきました。また、民間においても、特別養護老人ホームや、グループホームが運営され、高齢者の方がまちなかで生涯を安心して暮らせる住環境基盤は少しずつ整備されつつあります。しかし、高齢者の方が生きがいを持って暮らせるまちづくりを考えた場合、高齢者の方が様々な活動を行うことができる機会や場所を提供することと多世代が明るく交流できることが、生きがいを生むための方策であり、こうしたソフト事業を継続的に展開することが「安心・安全に暮らせるまちづくり」の課題であります。

また、平成27年に予定されている北海道新幹線の開業は、駅ができる町として、都心とのアクセス機能が向上し、交流人口の増加と、それに伴う町の活性化に大きな期待をしています。平成20年3月官民協働で作成した「北海道新幹線を活用した木古内町まちづくり構想」では、一次産業の活性化、観光素材の強化と新たな資源開発、旅行者に喜んでいただける駅周辺の街並み景観と、活気に満ちあふれた商店街の創出を図り、北海道新幹線の開業を町が新たに再生する起爆剤として活用することを目標として提言を受けました。

課題

課題①: 高齢者人口の増加に対応する生活基盤と、多世代交流を図る環境が整備されていない。

課題②: 町の人口減少により地域経済が疲弊し、町内商店の購買力が低下している。

課題③: 既存の観光資源の集客が乏しく、新幹線開業に伴う新たな観光ブランドの開発が急がれている。

将来ビジョン(中長期)

第5次木古内町振興計画のまちづくり目標「北の大地の福祉都市きこない」の実現に向け、高齢化社会に対応した安心・安全な住環境整備を目指している。

「北海道新幹線を活用した木古内町まちづくり構想」では、北海道新幹線や高規格幹線道路による高速交通網を活かした広域観光の推進や地場産業の活性化を目指している。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
高齢者対象事業の年間参加者数	人	生涯学習事業として実施する高齢者を対象とした様々な活動の1年間の参加者数	高齢者の社会参加を促し、活動の機会や見識の場を提供することで、高齢者の暮らしの充実が図られ、目標1の高齢者の方が安心し、生きがいを持って暮らせる「まちづくり」が進んでいると判断できる。	412人	平成21年度	500人	平成27年度
駅前通商店街の1日通行者数	人	商店街が連なる駅前通の1日の歩行者数	町のシンボル軸で商業の中心である駅前通商店街は、駅周辺の集客戦略により通行量が増え、目標2の賑わいのある商店街と目標3の観光振興が図られたと判断できる。	830人	平成22年度	1,000人	平成27年度
木古内町観光イベント来場者数	人	既存の観光イベント(2事業)の来場者数(北海道報告数値)	町の観光素材を高めることで、既存の観光イベントの来場者の増加に繋がりが、目標3の観光情報発信機能づくりが図られたと判断できる。(寒中みそぎ祭り・威臨丸まつり)	1,800人	平成21年度	2,200人	平成27年度

<都市再生整備計画の目標及び計画期間>

※本シートを都市再生整備計画につける必要はない

【記入要領】

- ・必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。
- ・「市町村名」、「地区名」にはふりがなを付すこと。
- ・「計画期間」欄には、都市再生整備計画の期間を記入し、「交付期間」欄には交付金の交付を受ける期間(概ね3～5年)を記入すること。
- ・「目標」欄は、交付期間内に達成すべき本計画の目標を簡潔に記入すること。
- ・「まちづくりの経緯及び現況」欄は、計画区域のおかれている現況や特徴、これまでのまちづくりの取り組みがわかるよう、簡潔に記入すること。
- ・「課題」欄は、計画区域のまちづくりの経緯及び現況を踏まえ、現段階で何が課題なのかを簡潔に記入すること。
- ・「将来ビジョン(中長期)」欄は、地方自治法に基づく総合計画、都市計画法に基づく都市計画に関する基本的な方針等、既存の計画等における計画区域の概ね5年以上先の将来ビジョンについて、その内容を簡潔に記入すること。
- ・「指標」欄は、原則として、数値で表現できるものを記入すること。
- ・「定義」欄は、指標の数値等がどのように算出されるのかがわかるように記入すること。
- ・「目標と指標及び目標値の関連性」欄は、指標が目標を如何に説明しているか、設定した目標値が目標を達成することを如何に説明しているか、について簡潔に記入すること。
- ・「従前値」欄は、設定した指標の基準年度における実績値を記入すること。
- ・「基準年度」欄は、指標の従前値を算出した基準となる年度を記入すること。ただし、基準年度は都市再生整備計画に位置付けられている交付対象事業が交付金をうけて着手される時点より前とする。
- ・「目標値」欄は、設定した指標の目標年度における目標値を記入すること。
- ・「目標年度」欄は、原則として都市再生整備計画の交付期間終了年度を記入することとするが、指標の基となる調査等の調査年度の関係でこれによりがたい場合はこの限りではない。

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(高齢者に対応した住環境整備― 目標1 高齢者の方が安心し、生きがいをもちて暮らせる「まちづくり」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方が安全に町内を歩くことができる歩道の設置や施設のバリアフリー化を行う。 ・町内各世代や、来訪者などが、ともに交流することができる公園整備を行う。 ・新幹線駅と駅周辺エリアを安全かつ安心にアクセスする移動空間の整備を行う。 ・高齢者の方の活動機会や見識を高め、町での暮らしに「生きがい」を与える事業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園(基幹事業)みそぎ公園 ・道路(基幹事業)町道朝日団地1条線 ・高質空間形成施設(基幹事業)スカイロード(現駅舎棟)トイレ整備事業 ・高質空間形成施設(基幹事業)スカイロード(現駅舎棟)エスカレーター整備事業 ・高質空間形成施設(基幹事業)道路照明・シェルター整備事業 ・高質空間形成施設(基幹事業)新幹線高架下整備事業 ・地域創造支援事業(提案事業)みそぎ公園支障物件撤去事業
<p>整備方針2(賑わいのある商店街整備― 目標2 街並み景観と合わせた賑わいのある商店街づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「町の顔」となる駅周辺の景観整備を回り、美しい街並みで気持ちよく買い物ができる環境整備を行う。 ・商店が連なる駅前通を楽しく歩いていただけるように、道路景観の改善や利便性の高い道路整備を行う。 ・地元住民や観光客を巻き込み、集客力の高い青空市場などを駅周辺エリアで定期的に開催し、商店街の賑わいづくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路(基幹事業)町道双葉線拡幅整備事業 ・地域創造支援事業(提案事業)スカイロード(現駅舎棟)外壁改修事業 ・地域生活基盤整備(基幹事業)ポケットパーク整備事業 ・地域生活基盤整備(基幹事業)みそぎ広場整備事業
<p>整備方針3(観光集客に対応する機能整備― 目標3 交通の利便性を活かした新たな観光開発と観光情報の発信機能づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域観光の推進を図るために、広域観光と当町のPR拠点機能を有する観光交流センター(みそぎの郷きこない)を整備し「道の駅」とする。また、アメニティの向上に資するモニュメントや案内看板、緑陰を整備する。 ・観光交流センター「道の駅みそぎの郷きこない」は新幹線開業に合わせ、特産品の紹介、販売、当町の農産物の直売所、賑わいと定住促進のまちづくりのための寄り合い拠点、広域観光のワンストップの情報提供機能を備える。 ・広域観光を推進することで、増加する交通事情に適応したアクセス道路の整備を行う。 ・当町の観光資源並びに地場産品のPR強化を図るため、観光パンフレットの作成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高次都市施設(基幹事業)観光交流センター「道の駅みそぎの郷きこない」建設事業 ・道路(基幹事業)観光交流センター「道の駅みそぎの郷きこない」アクセス道路新設事業 ・道路(基幹事業)新幹線駅アクセス道路新設事業 ・高質空間形成施設(基幹事業)道の駅案内看板等整備事業 ・地域創造支援事業(提案事業)観光パンフレット作成 ・地域創造支援事業(提案事業)観光交流センター「道の駅みそぎの郷きこない」建設事業 ・地域生活基盤整備(基幹事業)駅周辺観光案内サイン看板等整備事業 ・道路(基幹事業)町道山崎1号線外道路案内標識整備事業
<p>その他</p> <p>事業期間終了後のまちづくりの方向</p> <p>高齢者の方が、住み慣れた町で、生涯を安心・安全に暮らせる町がつくれ、また、世代間交流の様々な事業が、暮らしの充実度を高め、町の定住促進に繋がる。また、事業期間終了後に開業となる北海道新幹線が、町の交通の利便性を高め、都心とのアクセスが可能となることで、「安心・安全なまち」に、さらに「便利なまち」が加えられ、将来的には移住対策へと展開する。</p> <p>北海道新幹線の開業により、北海道ならではの食に関する観光や、地の利の条件を活かした観光(鉄道愛好者向け)など、新しい観光を導き出すことで、観光集客を回り、地元住民と観光客との交流が生まれる。これにより、町に賑わいが生まれ、町全体が活気に満ちあふれる。</p>	

<都市再生整備計画の整備方針等>

【記入要領】

- ・必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。
- ・「計画区域の整備方針」欄は、目標を達成するために具体的に何をするのかを簡潔に箇条書きするとともに、欄の右にある「方針に合致する主要な事業」欄に、本計画に位置付けられている事業のうち当該整備方針に合致する主要な事業の事業名を記入すること(1つの事業が複数の方針に合致することもあり得る)。
- ・「その他」欄は、都市再生整備計画に関する事項として、特筆すべき内容があれば記載してください。
- ・その他記載にあたっての留意事項は、「都市再生整備計画策定の手引き」を参照すること。

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	1,295	交付限度額	455	国費率	0.352
---------	-------	-------	-----	-----	-------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路	町道朝日団地1条線		木古内町	直	L=88m	H23	H24	H23	H24	21	21	21		21
	町道双葉線		木古内町	直	L=105m	H24	H24	H24	H24	18	18	18		18
	観光交流センター「道の駅 みそぎの郷きこない」アクセス道路新設		木古内町	直	L=130m	H24	H26	H24	H27	127	127	127		127
	新幹線駅アクセス道路新設		木古内町	直	L=102m	H24	H27	H24	H27	86	86	86		86
町道山崎1号線外道路案内構設新設		木古内町	直	6基	H27	H27	H27	H27	5	5	5		5	
道路(都市再構築戦略事業)														
公園(都市再構築戦略事業)														
公園(都市再構築戦略事業)	みそぎ公園		木古内町	直	A=3,300㎡	H24	H24	H24	H24	83	83	83		83
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設		—	木古内町	直	—	H25	H27	H25	H27	31	31	31		31
高質空間形成施設		—	木古内町	直	—	H25	H27	H25	H27	252	252	252		252
高次都市施設		—	木古内町	直	—	H24	H26	H24	H27	197	197	197		197
中心拠点誘導施設														
生活拠点誘導施設														
高齢者交流拠点誘導施設														
既存建造物活用事業(中心拠点誘導施設)														
生活拠点施設														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										820	820	820	0	820

…A

提案事業(継続地区の場合のみ記載)														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業	観光パンフレット作成事業	—	木古内町	直	—	H27	H27	H27	H27	3	3	3		3
	みそぎ公園支障物件撤去事業	—	木古内町	直	—	H24	H24	H24	H24	98	98	98		98
	スカイロード(現駅舎様)外壁改修事業	—	木古内町	直	—	H26	H26	H26	H26	13	13	13		13
	観光交流センター「道の駅みそぎの郷きこない」建設事業	—	木古内町	直	—	H24	H26	H24	H27	361	361	361		361
事業活用調査														
まちづくり活動推進事業														
合計										475	475	475	0	475

…B

(参考)関連事業														
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)			事業期間		全体事業費				
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度		終了年度			
駅前通		北海道	国土交通省	L=220m		○			H22	H26	920			
活力創出基盤整備～基幹事業(3・4・3環状通線)	町道冷水線	木古内町	国土交通省	L=423m		○			H23	H29	1,233			
活力創出基盤整備～効果促進事業	駅周辺地区	木古内町	国土交通省	—		○			H23	H28	783			
合計											2,936			

合計(A+B) 1,295

都市再生整備計画の区域

木古内町中心市街地地区(北海道木古内町)	面積	100 ha	区域	字本町、木古内の一部
----------------------	----	--------	----	------------

